

雨の濡らした夕月夜

〜彩り続ける者達の傘〜

作 大島寛史

登場人物

龍永アキラ	入居希望者
月野シュウ	オーナー
青空ノゾミ	画家
花謡タクト	音楽家
安来ユウコ	作詞家
富岡セイシロウ	演劇人
白川郷ヒロミ	演劇人
海越カズヤ	料理人
座間ハギノ	建築家
日暮アカリ	元・小説家
松本サトシ	バイトA
水戸ナツミ	バイトB
音羽ユキヒコ	元・住人

場所と時間

シェアハウスの共同スペース。さまざま。

プロローグ

人里離れた場所にあるシェアハウス。その1F、共同スペース。上手側が入り口。玄関へとつながっている。

上手の前は共同ダイニングへの通路。

真ん中にはテーブルセット。ソファも置かれている。

奥には窓がある。少しの観葉植物や置物が飾られている。

窓の向こうの天気は雨。薄暗く、陰気。

下手の奥には階段が伸びている。古ぼけた手すりの階段。

下手の前も一階の居住スペースへとつながる廊下がある。

決して新しくないが古ぼけているわけでもなく、整頓されているわけでもないが、荒れ果てているわけでもない、生活感に溢れた、そして個性的な主張に満ちた、統一感の無い空間。

明かりがつくと、松本サトシ、水戸ナツミ、月野シュウの姿。

松本、水戸の両名は神妙な面持ちで立ち尽くしており、

その周りを月野が責め立てるように歩いている。

月野が何か言おうとする度に二人は肩をあげ、深く息をつく度に、肩を下げる。妙な緊張感が支配していく。

そこへ、二階から花謡タクトが鼻歌まじりで降りてくる。

とただならぬ空気を感じて止まる。

花謡タクト ん。

月野シュウ 俺はさ、自主性を大事にしているわけだよ。

二人 ……。

月野シュウ 犯してしまったこと。いや、今回は何もしていないんだけど、

そのつまり、何もしていない、ということについて。ね。

こうして、追求をされていてさ。

二人 ……。

月野シュウ 申し訳ありませんも、ごめんなさい、も、すみませんさえも。

無くてさ。

二人 ……。

月野シユウ こうして俺が話していることについての相づちも無くて。

二人 はい。

月野シユウ それが適切な相づちだともお思いか！

松本サトシ そ、そんなことは！

水戸ナツミ 決して！

二人 あ、ありません！はい！

月野シユウ そんな時ばかりぴったりそろって。

二人 へへへ。

月野シユウ 別に褒めてない。…で、どうするの。

松本サトシ どうする、とは。

月野シユウ やる気あんのかって。

水戸ナツミ やる気……。

月野シユウ なんて、果たして、みたいな感じでいられるんだよ。

掃除しといてって言ったじゃん、言ったよね？

なのにこの有様だから怒られてんだよ？君たち。

怒ってるの、俺。わかる？

二人 あ、はい。

月野シユウ なめやがってお前らあ！

花謡タクト ちよつとちよつと！

月野シユウ なめてんだろ、馬鹿にしてんだろ、おちよくってんだろ！

花謡タクト 落ち着いて、おーちーついてよー、オーナー！

月野シユウ 離せ外国人！こいつらにはいつかガツンと言って

聞かせてやらないといかんと思っていたんだ！

花謡タクト い、いつも、いつもガツンと言ってる、っていうかやってる。

松本くんなんて青あぎのデパートみたいになってるから！

あー、だったらそのまま商売始めたらいいんだよ、

あの日の青あぎ3000円、この日の青あぎ5000円！

できたて青あぎ8000円！

花謡タクト 意味わかんない意味わかんない！

水戸ナツミ あの！

花謡タクト はい、ナツミちゃん！

水戸ナツミ こうしませんか、じゃんけん。じゃんけんで決めませんか。

花謡タクト ……続けて。

水戸ナツミ 私が負けたらガツンとやられる。私が勝ったらお咎め無し。

いかがでしょう。

間。考える間。

花謡タクト なるほど。いかが、オーナー。

月野シユウ なるほど、よしじゃあ、それで。

……いいわけ無いだろ！

追う月野、押さえる花謡、逃げ惑うバイト二人。

そこへ、日暮アカリが入ってくる。皆の視線が集まる。

沈黙。

日暮アカリ ……。

一瞥もろくにせずに、階段を上がっていく、日暮。

四人の視線が、それを追いかける。沈黙は続く。

月野シユウ また、傘も差さずに。あの人は。

その隙に花謡の指示でバイト二人がダイニングへ逃げようとする。

月野シユウ まだ、話は終わってないぞ、お前達！

二人は慌ててダイニングへ。

花謡タクト いいじゃんいいじゃん、私やるから。ね？ユウコと。

月野シユウ またそうやって甘やかして。

花謡タクト いいじゃんいいじゃん。皆でやれば早いつて。

月野シユウ いや、そういう問題では無くて、役割という物が――

花謡タクト 誰か今いるー？ノゾミーン、座間っちー。ユウコー。

呼び声に反応して返事をして現れたのは、

富岡セイシロウと白川郷ヒロミ。

富岡セイシロウ 呼ばれて！

白川郷ヒロミ 飛び出て！

二人 じゃんじゃんじゃんのじゃんじゃん！

花謡タクト いや、呼んでないけど。
富岡セイシロウ あれ、富岡と白川郷っていいませんか？
白川郷ヒロミ 確かに、そう聞こえてから、私たち自主練やめて。ね。
富岡セイシロウ はい。
花謡タクト ねえ、いないのー？
富岡セイシロウ うわ無視だ。ひどい。
白川郷ヒロミ 気を確かに、セイシロウ！
花謡タクト うぜー。……ねーってば！

花謡、奥に入って呼びに行く。

富岡セイシロウ で、何をすればいいんですか、オーナー。
月野シュウ 立ち直りも早いな。
富岡セイシロウ で、何をすればいいんですか、オーナー。
月野シュウ 会話をしてください。
富岡セイシロウ 会話をすればいいんですか。どうぞ。しましよ。れっつ。
月野シュウ いや、そういうことではなくて。
富岡セイシロウ お。
月野シュウ お。
白川郷ヒロミ お？

花謡、座間ハギノを連れて出てくる。

花謡タクト じゃ、そういうことだからー。
座間ハギノ えー、それ今ー？バイトはー？
花謡タクト 皆でやれば早いって。ね。
月野シュウ 何度も言ってるけどさあ。別にこんなに。

青空ノゾミ、階段から降りてきて。

花謡タクト あ、ノゾミン、おそーい！
青空ノゾミ ごめんごめん、え、なに、宴会？
座間ハギノ まだ昼間ですけど。
青空ノゾミ わかってますけど。
座間ハギノ はあ？

扉が開いて。龍永アキラが入ってくる。

月野シュウ あ。

龍永アキラ こんにちは。今日からお世話になります。

花謡タクト ……え、それに、なに？

月野シュウ え、ああ、うんそれに……もう何もかも手遅れだ。

音楽。OP。

傘が欲しいと呟いた

湿り気のあるアスファルト

長靴脱いで追いかける

少し気のある君のこと

黙って見ていた帰り道

涙こぼして笑ってた

ブランコの揺れている様が憎い

僕の小指が長ければ君とつなげた帰り道

僕の気持ちが強ければ君を救えた帰り道

青と紫入り交じる雲はぶかぶか浮かんでる

群青色の水たまり

あの日笑った君はどこ

横断歩道の真ん中で

あの日交わした約束は

いまもヘラヘラ歩いている

遠い遠い空の向こう。

黙ってほほえむ夕月夜

今にも消えそうな微笑みは

雨が濡らしたせいでしょう。

雨の濡らした夕月夜く彩り続ける者達の傘く

音楽。照明落ちて。転換。

1.

明かりがつくとそこには、青空ノゾミ、座間ハギノ、花謡タクトが
思い思いの場所にいる。何かをしている風では無い。

青空ノゾミ おお……。

間。

青空ノゾミ おお……。

間。

青空ノゾミ おお……。

間。

月野シュウに連れられて、龍永アキラ、入ってくる。

月野シュウ じゃあ、次は二階へ。

龍永アキラ あ、はい。

三人とも声の方向を物珍しく見る。が。

月野と龍永は二階へ上がっていく。

間。

青空ノゾミ おお……。

座間ハギノ ……珍しいよね。

花謡タクト ん？

座間ハギノ いや、今の。

花謡タクト ああ。

座間ハギノ ……。

花謡タクト いなくなったらじゃない。一人。

座間ハギノ ああ。
花謡タクト ……。
座間ハギノ どうだ。この、間を埋めるための会話を、適当な相づちで返された気分は。
花謡タクト ……ごめん。
座間ハギノ 助け合おう。
花謡タクト うん。
座間ハギノ ね。
青空ノゾミ ……おお。
花謡タクト うん。
座間ハギノ わかればよい。
青空ノゾミ ……おお。
座間ハギノ さっきから何。
青空ノゾミ ……おお。
座間ハギノ ノゾミ。
青空ノゾミ ん？
座間ハギノ ん？じゃなくて。
花謡タクト 何見てるの？
青空ノゾミ 何って。ほら。
花謡タクト え？
青空ノゾミ 雨。
座間ハギノ 雨見て、いちいち？
青空ノゾミ うん。結構私、好きかも。
花謡タクト 変なこと言わないでよ。
青空ノゾミ そうかな？
花謡タクト ねえ。
座間ハギノ まあ、今に始まったことではない。ノゾミが変なのは。
花謡タクト それもそうか。
青空ノゾミ 聞き捨てならない。変な人に変な人呼ばわりされる、この妙な気分を放っておけない。
花謡タクト 雨みてうなつてなよ。そしたら気分も変わるよ。
座間ハギノ いいね、雨見て唸る画家。
花謡タクト そう？
青空ノゾミ 面白いのに。
二人 ……え？

おそろおそろ、ノゾミを見ると、ノゾミはまた窓の外。

青空ノゾミ ……おお。

座間ハギノ 私、時々あの子がわかんない。本気で。

花謡タクト うん。私も。

座間ハギノ まあ、あんたも大概だけどね。

花謡タクト あんたもね。

青空ノゾミ どっちもどっちよ。

二人 あんたもね。

座間、花謡、お茶を飲む。

青空はソファに戻る。

座間ハギノ どうなの、最近。

花謡タクト どうって？

座間ハギノ 作曲は。

花謡タクト ああ。

座間ハギノ 二人の共同作業は、順調？

花謡タクト まあ、そりゃあ、こんな環境まで与えてもらって、

順調じゃなきや、困りますよ。ねえ？

青空ノゾミ そーね。

花謡タクト です。そっちはどうなの？

座間ハギノ これがさっぱりでさ。

花謡タクト ……え？

座間ハギノ 白紙もいいところって感じ。

花謡タクト え、まずくない？

青空ノゾミ もうすぐ月末だよ？

座間ハギノ うん。わかってるんだなあ、それは。

花謡タクト 今月、なんだっけ？

座間ハギノ 劇場。

花謡タクト いいじゃん、劇場。ねえ？

青空ノゾミ うん。何に困ってるの？

花謡タクト 相談乗るよ。

座間ハギノ 困ってる、というよりは、困ってないことに困ってる

というか。どこから手をつけていいかわからないというか。

花謡タクト 何言ってるの？

青空ノゾミ さあ。

座間ハギノ たぎらんのだな、多分。

間。

花謡タクト え、じゃあ、やめたら。

青空ノゾミ うん。たぎらないのなら、無理だよ。

座間ハギノ そういうわけにも。あと一週間だし。テーマ変更して。

いまから。うん。ん。無理だよ。間に合わない。

青空ノゾミ そういふもんなあ。

座間ハギノ 気に入らなかつたら、ひったぶっちゃうあんたとは

違うのだよ。

青空ノゾミ 私そんなことしないもん。

座間ハギノ こっちは現実的に、建てられる物の設計図をかくわけさ。

デザインを起こすのさ。あんたみたいに、夢も希望も

予算も都合も無視して、創作ですって胸張れるわけ

じゃあ、ないのだから。

青空ノゾミ いや――

花謡タクト 言い過ぎだよ、座間っち。お互いを尊重しないと、

真のクリエイターとはいえませんよ。

座間ハギノ はいはい。お嬢様音楽家は、偉いよね。

花謡タクト え？

青空ノゾミ 何、今日はずいぶん突っかかるね。

座間ハギノ ごめん、いらついでる。

青空ノゾミ やだやだ、締め切り間近のクリエイターは。

近づくもんじゃないね。

座間ハギノ ごめんごめん。

花謡タクト ちよつと待ってよ、私の傷ついた心はどこで癒やすの。

座間ハギノ え？

花謡タクト 傷ついていたの、いつ。みたいな顔しないでよ。

誰がお嬢様音楽家だ。

座間ハギノ あんた。

花謡タクト ちよつと。思わず笑っちゃったよ。何それ、馬鹿にしてる？

座間ハギノ いや、別に。ね？

青空ノゾミ あ、違うんだ。

座間ハギノ ちよつと。

青空ノゾミ ごめんごめん。つい。そんなつもり無いでしょ、ハギノに。
花謡タクト いいや、あるでしょ。ケンカ売ったでしょ。

私が一人じゃ何にもできないポンコツ外人だって
はっきり言った。ね。ね。

座間ハギノ してないよ、私、お嬢様音楽家、しか言っていないじゃん。

そう思ってるんでしょ？そう思ってるから、そう聞こえ
たんじゃないの？じゃあ改めたらいいんだよ、自分の行い
に、負い目があるんだからさ。

花謡タクト なに、怒るよ。

座間ハギノ もう怒ってるじゃん。

花謡タクト あんたがね。

座間ハギノ あんたもね。

青空ノゾミ まあまあ二人とも。

座間ハギノ うっさい。

青空ノゾミ はあ？人がせつかくさあ。

花謡タクト あ。

座間ハギノ なに。……あ。

青空ノゾミ あ。

三人の視線の先には、月野シュウと龍永アキラ。

間。見つめる間。月野シュウ、くるりと背を向けて。

月野シュウ 以上をもって「創作活動をする人のためのシェアハウス」

稲荷荘のツアーは終了です。このように、非常に仲良く

時に白熱することもある意見交換なども行える、創作活動
をする人にとってはとても刺激的な有意義な場所だと言え
ます。いい時代だよね全く。では皆と仲良く、自分のやり
たいことにキチンと迎えるように今日から過ごしてください
い。何か質問はありますか。

龍永アキラ いや、いま仲良かったですかね。

月野シュウ はい、無ければ自由行動です。いろんな当番がありますが、
それはまたおおい。とりあえず、休んでください。

龍永アキラ いや、あの。

月野シュウ どうぞ。

龍永アキラ ……はい。

龍永、自室へ。
間。

月野シユウ お前達はさ。

間。

月野シユウ 装うっていうことが、できないのかなあ。

間。

月野シユウ 第一印象ぐらい、いい感じにしようかなあって。

思わないのかなあって。

座間ハギノ お前が言うか。

月野シユウ そっくりそのまま返すわ。

座間ハギノ あん？

月野シユウ あん？

花謡タクト立ち上がる。

花謡タクト じゃ、私部屋戻るね。

青空ノゾミ あ、じゃあ、私も。

座間ハギノ え、ちよつと。

花謡タクト 作業しないと。ね。

青空ノゾミ ね。

座間ハギノ え、ずるい。皆で一緒にやろうって言ってさあ、ここに

来たじゃん。遣ろうよ、作業。ねえ。

月野シユウ そんな風に言って集まったの、三人。

座間ハギノ そーだよ。悪いかよ。

月野シユウ いや、だったらせめて誰かは自分の作業道具を持ってきな

さいよ。筆は。楽譜は。図面は。月末もうすぐだけど

提出できるんだらうなあ。わかってるでしょ、あなたたち

は、

ベテラン組なんだから。追い出されるよ、ここ。

創作活動をする人のためのシェアハウスは創作活動を

しない人のための場所ではございません。特別支援を受けて成り立っているここは、一定の成果をあげないと支援どころかその存続すら危ういのです、つまりあなたたち創作活動をする人たちにはある程度の責任が……。
おい。誰もいねえよ。

セリフの間に三人はいなくなっている。

月野シユウ よろしく頼むぞー！サボるなっていつてるんじゃないんだ。

作ってくれればいいから。音楽を。建造物を。絵画を！
頼むぞ！

間。月野、窓の方へ。

月野シユウ ……。これがホントのアマガエル。なんつって。

青空ノゾミ、戻ってきていた。

青空ノゾミ ねえ。

月野シユウ どうした、わざわざ説教されに戻ってきたわけじゃない
だろ。

青空ノゾミ 座間がさ。

月野シユウ はあ。なんだよまたケンカかよ。勘弁してよ。

青空ノゾミ かけてないんだって、全然。

月野シユウ え、嘘だろ？だって、嬉々としてたろ、企画段階で。

青空ノゾミ うん。町の情景に合わせた劇場を作るんだって。

月野シユウ 言ってたじゃない。どうしたの。やっぱり灰がアレか。

青空ノゾミ さあ。

月野シユウ なんか余計なこと言ったんじゃないの？

青空ノゾミ 確かに馬は合わないけど、そこは尊重しますよ。

月野シユウ そうだよな……。まずいな、あんまり時間ないぞ。

青空ノゾミ あいつみたいになるの、座間も。

月野シユウ だからあいつはそういうんじゃないんだって。

青空ノゾミ オーナー。

月野シユウ 今はそれ、信じててよ。

青空ノゾミ ……。(不満げな顔)

月野シユウ 笑え。

青空ノゾミ え？

月野シユウ 笑うんだよ。気持ちぐらい晴らさないよ。

青空ノゾミ ……。

青空ノゾミ、部屋へ行こうとする。

月野シユウ お前、何書いてるんだ。

青空ノゾミ ……。姉さんと一緒。

月野シユウ ……そうか。

青空ノゾミ うん。

青空ノゾミ、去る。

月野シユウ 頑張れ。頼むよ。

海越タツヤ、入ってくる。

海越タツヤ お。

月野シユウ お疲れさん、シェフ。あれうまかったな、今日の。

海越タツヤ なに。どれ。パスタ？パン？

月野シユウ そう。それ。

海越タツヤ パスタ？

月野シユウ おう。

海越タツヤ あれ、バイトの二人が作ったんだわ。

月野シユウ ……いや、パンパン。

海越タツヤ あれ、買ってきた奴だわ。

月野シユウ じゃあお前なにしたのよ、シェフ。

海越タツヤ 何にもしてないよ。だから言ったら、食べてるぞーって。

月野シユウ あ、あれオープンング用のツカミのギャグじゃないんだ。

海越タツヤ 何言ってるの？

月野シユウ なんでもない。

海越タツヤ どう、新入りは。

月野シユウ ああ。まあ、どうもこうも。

海越タツヤ なんの人なの。

月野シユウ ……？何の人だっけな。

海越タツヤ えー、会話しないの、そういうの。

月野シユウ しなかったな。案内に夢中になった。

月野シユウ、ダイニングへ。

月野シユウ コーヒー煎れてくれよ。飲みながら話そう。

海越タツヤ 今日こそブラック？

月野シユウ いやむしろホワイト。

海越タツヤ それはもうミルクだな。

二人、ダイニングへ。

富岡セイシロウ、白川郷ヒロミ、入ってくる。駆け込んでくる。